

四国八十八ヶ所歩き遍路  
「阿波の国編」

松尾 信孝（昭48年卒）

プロローグ

不謹慎のようだがなぜこんなことを思い立ったのか自分でもはっきりしない。多分、商売柄冬には有り余るほどの時間があり、それを使って健康維持のため自分にあつた運動で、かつ比較的安全に体力の限界近くまで試せるのとは考えていたところ何かの拍子に行き当たったようだ。かくて四国八十八ヶ所を歩いて廻る、いわゆる歩きお遍路さんをはじめめる事になった。

とはいえ、ある程度見極め、実現可能な計画だと確信しないとはじめられないというインテリの弱点と山岳部の慎重さからなかなか実行には移せなかった。何もわからないけどとにかくリーダーの言うままに歩いて休んでいけばちゃんと頂上についていた新人山行とはいかない。とにかく自分で調べ、かつ計画が実現できるだけの体力、脚力をつけておか

なければならぬ。

いやあ、確かに何も人跡未踏とは言わな  
けど人里離れた深山幽谷を行脚するわけ  
でなく（実は行路の90%は舗装道路で80%は車  
の粉塵を浴びながらの歩行であるのだが）そ  
こまでストイックに考える必要はないとい  
えるのだが。とにかくいろいろ準備をしてよ  
やく具体的なイメージが浮かび上がってきた。  
つまり準備もそろそろ最終段階に入ってきた  
わけだ。

参考にした先人の紀行文や偉いお坊さんの  
本なんかでは「車に乗ってもなんでもどんな  
廻り方をしてもいいですよ。いつもお大師  
様が付いていてくださいますから」（いわゆ  
る同行二人）と書いてある。しかし自分は最  
初に書いた目的のため全行程歩いて廻ること  
にした。本当は88ヶ所すべてを一度に通して  
廻りたいのだけど、こればかりは商売柄で  
ない。女房殿からは「お客さんの予約が入  
たら帰ってくる」と言う条件でOKが出た。

トレールニングのほうは自宅の近辺、標高1  
500メートルを歩き回ったり（高所トレ  
ーニング）、凍てつく諏訪湖の周りを廻ったりし  
て積んできた。さあ、いよいよ全行程120  
0キロ強の愚行の始まり始まり。

## 阿波の国編

第1回目 2003年1月28日

高德線坂東駅→第1番霊山寺→

第10番切幡寺→徳島線阿波川島駅

歩行時間 10時間15分 35キロ

いわば偵察山行のようなもの。前夜泊の徳  
島市のビジネスホテルを朝出て、その日の夜  
再び帰ってきた。第一番で金剛杖、納経帳、  
納め札などの基本のお遍路グッズとおま  
いの作法など教わり歩き始める。第二番へは  
県道を歩く。折からの通勤時間ですれ違う車  
に杖を突いて歩いているのがなんとなく気恥  
ずかしかつた。だっ広い吉野川の河川敷で  
雪混じりの強い西風の歓迎を受けて夕闇迫る  
阿波川島駅にたどり着く。足は痛かったがこ  
れなら何とか行けると思った。

第2回 2003年2月11日～15日

2月11日 阿波川島駅→第11番藤井寺

歩行時間 45分 4キロ

朝茅野を出て大阪でバスを乗り継ぎ徳島へ。

午後4時過ぎに阿波川島駅に着き5時の納経  
締め切りに間に合うように11番藤井寺に向  
かう。今回から着替え、雨具、そのほかいろ  
いろで10キロ近くの荷物を背負い汗だくにな  
って急ぐ。5分前に着いた。この、納経受  
付時間の7時から17時までというのは比較

的厳格に守られており、よく考えて予定を立  
てないと思わないところで時間をロスする  
ことになる。泊まりは寺の前の遍路宿。

2月12日 第11番藤井寺→第12番焼山

寺→宿

歩行時間 9時間 28・4キロ

昨日のうちに納経を済ませておいたので早  
立ちできる。5時45分に朝食をとり6時に出  
発。一般的に遍路宿は設備は良くないがこう  
いったお遍路の必要にはきちんと応えてくれ  
るところがうれしい。

11番から12番の間は最初の難所（遍路こ  
ろがし）。2、300メートルのアップダウン  
を繰り返す山道が13キロも続く。遍路ころが  
しというだけ実際ここでダウンして挫折す  
る歩き遍路が大勢いるという。幸い元岳人  
は拍子抜けの感じで標高700メートルの焼  
山寺に着く。そこから一気に500メートル  
下り、鮎喰川上流に出るとあとは徳島に向  
かってひたすら歩く。

この日、山道を歩いていて最初の「お接  
待」を受ける。後ろから来た軽トラの窓があ  
いておばちゃんがかんを3個くれた。もち  
ろんありがたく頂戴する。予約していた宿に  
は午後4時前に着いて驚かれた。実は予約の  
電話を入れたとき「前の日はどこからか」と

聞かれたので「11番さん」と言うと、「それは無理だからやめたほうがいい」と言われ、「途中で車に乗ってでもたどり着くからとめてくれ」と頼んで予約した。もちろんこちらは全部歩きだ。但し、まだ慣れないせいか午後になると足の裏が焼けるような感じになり、ちよつとした（小石程度の）起伏にも敏感に痛みを感じる。もう少し底の厚い靴のほうがよさそうだ。

2月13日 宿↓第13番大日寺↓徳島市

内↓第19番立江寺↓宿

歩行時間 11時間45分 47・8キロ

13番から17番井戸寺は徳島市西部郊外にかたまっている。それから徳島市内繁華街を抜けて再び山に入る。つかの間のオアシスのような。徳島市内の国道を歩いていると前から来た妙齢のご婦人から500円（玉）のお接待を受けた。とっさのことに気の利いた返す言葉もなくただお札を述べただけ。後ろ髪を引かれたのは去り行く徳島の繁華街かご婦人のご好意か。

午後は例のごとく焼けるような足裏を引きずり、とぼとぼと遍路宿に17時45分に着いた。実はこの宿でも前日に予約を入れたとき「13番の先から来る」と告げるとやはり「それは無理だわ、もう一度考え直しなさい」と

いわれた。したがって午後2時頃、18番恩山寺に着いたときにもう一度電話をしてやっと納得してもらった。宿の女将に「13番の先からここまでたどり着く人はめったにいない」と言われた。

2月14日 宿↓第20番鶴林寺↓第21

番太龍寺↓宿（日和佐）

歩行時間 10時間50分 45キロ

宿から20番鶴林寺までは標高差450

メートルを、気に登り360メートル下つて、第21番へは再び360メートル登る。ここは2番目の「遍路ころがし」といわれている。これも元岳人にはそれほどでもなかったが、さすがにどちらのお寺も樹齢数百年の杉木立に囲まれた深山の名刹のたたずまいで霊験あらたかであった。但し太龍寺の方は裏からロープウエーが昇ってきており、ガイドの旗に連れられたお遍路さんもいたりしていささか興ざめでもあった。

太龍寺から第22番平等寺への途中、大根峠という竹林に囲まれた緩やかな峠を越えていると携帯が鳴った。かみさんから「明日日予約が入ったので明日中に帰ってきてほしい」と。ならばがんばって何とか23番薬王寺をお参りし、「発心の道場」たる阿波の国を終えておこうと日和佐まで行くことにする。

日和佐は海がめが産卵する場所として有名で、予約した「うみがめ荘」という名の宿に6時前にたどり着いた。季節外れの町営国民宿舎には客はあと一組。久しぶりの大浴場を堪能できたが、部屋からの行き返りの階段の上り下りがきつかった。

2月15日 宿↓第23番薬王寺↓牟岐線

山内内駅

歩行時間 2時間 7・3キロ

町営国民宿舎の朝食は朝7時から。規則でそれより早くは出来ない。今日は第23番薬王寺を済ませて、それから少しでも先に進んでおきたいと思ったが公営のサービスマンとはそんなものだとなつて7時きっかりに食べ始める。

通学途中の中学生たちと一緒に日和佐の町を歩いて薬王寺に。お参りを済ませて国道を室戸岬に向かって歩き始める。結局日和佐のひとつ先の駅まで歩き、上り列車に乗る。汽車を待つ間ウグイスの声に耳を傾け一両編成のディーゼルカーの座席に座るとなぜかホッと。午前10時29分発の列車に乗ると徳島で大阪行きのバスに乗り換え、大阪から再びバスに乗り換えて夜10時に雪深い信州に着く。

とりあえず発心の道場たる阿波の国を終えて感じたこと。

#### ▼「お接待」

四国お遍路さんに対する地元の人々の親切。「巡拝の委託」であり、お接待をすることにより自分に代わって巡礼をしてみらうという信仰の形という事らしい。従って断ってはならないとされている。普通はちよつとした飲食物のことが多いが時にはお金のことも。私が受けた「お接待」の例は、みかん、500円玉、ホン米、自販機の缶コーヒー、焼き芋、昼飯の弁当、コンビニでおにぎりを買ったとき店員のアンちゃんからお茶、など。タオルの産地である愛媛県の今治では市内を歩いていると別々の3人からそれぞれタオルのお接待を受けた。時々車に乗らないかとお接待の申し出があるが全行程歩きなのでこれだけは丁重にお断りする。

#### ▼「遍路宿」

旅館であるがもっぱらお遍路さんの宿泊施設として使われている。料金は2食ついて6500円が一般的であるが、歩きお遍路は1000円引きなどというところも。食事はうま、早朝の出発にもちゃんと朝食を用意してくれる。設備は古く隣室とはふすま一枚で隔てられているのが普通で、混み合う時期は相部屋となる。夜9時には寝静まる。夕食時

に食堂で会った妙齡のご婦人お遍路さんがふすま一枚の隣室であることがわかると多少は胸が騒ぐが40キロ歩いた後ではボタンキューしか夜のすごし方はない。ほんとに。

#### ▼「納経帳」

それぞれのお寺でお参りしたあとに納経所でそのお寺の印を押してもらおう帳面。確かにお参りを受けましたよというし。1箇所300円と決まっている。スタンブラリーのようなものかもしれないが八十八ヶ所とお礼参りの高野山の印全部が押してあると3〜5万円で取引される。もつとも全部押してもらうだけでも3万円弱かかっている。儲かる話ではないから棺桶に入れてもらうくらいかな。

最近では八十八ヶ所を貸切りバスで廻るツアーが人気らしく団体がドンと来ると一団がお参りしている間に添乗員が納経所に走って行って全員分の納経帳に押してもらっている。光景をよく目にする。お寺にとつても大きな収入源で、八十八ヶ所とそうでないお寺の格差は大きいなど余計な心配をしてしまう。前に観光バス2台分の添乗員が印を待っていたりすると30分くらい待たされることもあるが、一人であっても決して先にやらせてくれない。それほどお寺と観光バスは仲が良い。

#### ▼「同行二人」

一人でお遍路をしていてもいつも弘法大師様が一緒に修業をしてくださっているという意味らしいが、第一回目を終えて帰宅したとき、金剛杖に「同行二人」と書いているのを目ざとく見つけた女房殿は「あら、お一人でいかれたのではなかったの？」と問い詰めるような口ぶり。私は「お、お大師様と……」となぜか狼狽して答えたものでした。

そのあとも「区切り打ち」を続け、今はようやく伊予の国を終えるところまで来た。全体の4分の3位済んだのかな。約900キロだ。今年の冬で何とか88番までたどり着きたい。それにしても元気で歩けるといふことはありがたいことだと痛感する。

(次号以降、土佐編、伊予編と最後まで続けられればいいが。)

